「季節の花 300」
http://www.hana300.comより
（写真・説明文引用）

蠟梅
（ろうばい）
花言葉…「ゆかしさ」「慈しみ」「先導」「先見」など

中国原産。日本には17世紀頃に渡来。「“蠟細工”のような、梅に似た花」から「蠟梅」の名になったらしい。よく見られるのは蠟梅のうちの「素心蠟梅（そしんろうばい）」。花の外側だけでなく内側も黄色いのが特徴。花のあとでできる実は、なんともユニークな形。花の姿からは想像できない。

花のお便り

2017.1　No.127
E-mail : info@miyazaki-p.co.jp
http : //www.miyazaki-p.co.jp/
〒157-0062 東京都世田谷区南烏山5-33-2
TEL. 03-5384-1331・FAX. 03-3305-2528

小池都知事の登場で、豊洲市場やオリンピック問題がにわかに脚光を浴びるようになった。豊洲は謎の盛土や汚染された地下水、建設費用の談合疑惑で頓挫している。豊洲市場建設でびっくりすることは、大企業が集まり共同体を作り、都民の税金を食い物にしていることだ。それはオリンピックの会場建設でもしかりであろう。印刷業界の行政府の見積など、限りなく安い金額での落札とは大違いだ。国や都の税金が、無駄使いされない仕組み作りが求められる。

明けましておめでとうございます。

昨年はお得意様各位のご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。
本年もより一層の品質向上、サービスに努めますので、昨年にも増してご厚誼を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。
今年は酉年ですが、50年前くらいは東京でもニワトリ小屋があり、それほど多くはないが、家庭でも飼われてました。その頃、地方ではニワトリを飼うのはごく普通で、その他ウサギ・ヤギ・豚なども飼育する家もありました。私は幼少の頃5年間ほど、長野県の叔父の家で暮らした経験があり、農業の体験もしましたが、うさぎの飼育も私の分担でした。学校から帰るとカバンを放り出し、カゴを背負い、川の土手や原っぱの草を鎌で刈りウサギに与える役目でした。その草は、今思えばからすのエンドウだった記憶があります。朝になるとヤギの乳が温められ、お膳にのり、勿論ニワトリの卵もいただきました。今となってみれば貴重な体験で、その時の田んぼやりんご畑の記憶が蘇ります。食の大切さが言われて久しいが、現在の子どもたちは家畜との関わりや、農作物がどのように育つかなど理解ができないでしょう。小さいころから農業体験ができれば、食の問題がもっと身近になることでしょう。
話しがおかしな方向となりましたが、ともあれ今年も花のお便り共々、一年よろしくお願いいたします。

気まぐれエッセイ　獅子唐も唐辛子になる？

会社裏の農園では、今年もきゅうり、トマト、大葉、茄子、枝豆そして獅子唐を育てた。今年は枝豆を除いてどれも大豊作で、少しは家計の助けとなったかな。その中でも獅子唐は7月から次々と収穫を続け、10月を過ぎても衰える気配はなかった。ところが不思議なことに、9月頃より獅子唐の隣に、唐辛子が茎を伸ばし、実が成長してきた。植えた記憶の無いものが出現するとはどういうことなのか。読者の皆さんのアンサーをお待ちします。さて11月に入り、獅子唐には可哀想だが収穫することを止めることとした。するとポツリポツリと巨大な獅子唐となり色鮮やかに赤くなってきた。もしかして「鷹のつめ」になるのではと考え、大きくなったところで、ベランダで乾燥することにした。結果的には家の中での乾燥が一番だったが、辛味はまあまあで、鷹の爪の代用にはなりそうだ。